

From the
People of Japan

脆弱な人々のレジリエンスを高め、 包括的な経済発展を支援する

予算: 2,268,851 米ドル



実施期間: 2022年12月 - 2024年12月

開発課題

中央アフリカ共和国 (CAR) は、人間開発指数の値が0.571 (UNDP2019) で、最下位 (188/189) の次にランクされている。度重なる武力紛争のため、独立以来、持続的な成長を経験していない。2018年現在、約340万人 (人口の約71%) が国際貧困ライン (1日1.90米ドル) 以下で生活している。

紛争の間、社会インフラは破壊されたり放棄されたりし、多くの中央アフリカ人から教育へのアクセスが奪われ、その結果、2018年時点で37.4% (女性25.8%、男性49.5%) という低い識字率となっている (UNESCO 2018)。社会インフラが劣化し、修理や改善のための投資が不足していることは、経済の回復と発展の課題である。教育到達度、健康成果、政治空間における代表、労働力参加において、女性と男性の間には著しい不平等がある。こうした問題は貧困を悪化させ、コミュニティの回復力を弱め、暴力的過激主義の主な原因のひとつとなっている。

CARでは、援助介入のほとんどが人道的なものであり、同国は経済復興と開発の道筋を切実に必要としている。同国は豊かな天然資源に恵まれているが、その資源が十分に活用されていないため、人々は脆弱な状態に置かれている。国の回復力と発展を支えるためには、人的資本への投資が不可欠である。

プロジェクトの目的

プロジェクトの全体的な目的は、バンギ、ムベイキ、ボサンゴアにおいて、社会的弱者、特に女性、危険にさらされている若者、元戦闘員、帰還民、国内避難民が経済活動に積極的に参加できるよう支援することである。この3都市は、日本政府が資金を提供した過去のUNDPプロジェクトによって支援された。

長期的な経済発展が促進されれば、生計の機会が増え、その結果、暴力的過激主義に加担するプッシュ要因が減少する。

以前のUNDPプロジェクトの受益者からは、識字訓練を継続し、識字訓練センターを建設して、非識字者がより生産的な生計を立て、家庭やコミュニティの変革にますます積極的な役割を果たせるように支援することを目指すという強い要望があった。プロジェクトは、期間中に識字訓練に参加する2000人以上の受益者 (少なくとも50%以上が女性) を対象としている。

プロジェクトはまた、農産物加工と木工分野の生産活動を発展させるため、農産物加工専門訓練センター、木工専門訓練センター、市場を建設する。プロジェクトはまた、収入創出活動の開発を促進するため、一時的雇用と技術訓練を提供する。地方自治体や受益者グループは、訓練や機材の提供を通じて社会インフラを管理する権限を与えられる。

プロジェクトの成果

地域社会のインフラは、社会的弱者、特に女性、危険にさらされている若者、元戦闘員、帰還民、国内避難民が経済活動に積極的に参加できるよう支援することができる。

社会的弱者、特に女性、危険にさらされている若者、元戦闘員、帰還難民、国内避難民が、収入を生み出す活動に従事する能力を高めるための研修を受けられるようにする。

パートナーシップ

日本政府

SDGs への貢献

